

夢と希望を支えるシステム

今治市立大西中学校 3年 阿部 花恋

小学校のときから、私は病気で通院を続けていたのですが、中学生になる直前に突然、手術をすることが決まりました。覚悟を決められない私は、姉に連絡しました。

当時、姉は大学に通うために、県外で一人暮らしをしていました。小学生の頃から看護師になりたいという夢を持ち、そのために一生懸命に勉強を続け、志望する大学に合格したのです。大学でもさらに、厳しい勉強の毎日が続いています。自分の夢を叶えるために、頑張る姉はとても誇らしく、姉の夢の実現を家族中が応援していました。その姉が、私からの連絡を受けて、母に電話をかけてきました。姉は医学の勉強をしているので、私がこれから受ける手術がどれだけ大変で痛みを伴うのか、そしてどれだけ高額なものであるかを理解していました。そして、「私は妹のために何もしてあげられないけれど、これから家計が大変になるだろうから、私への仕送りはもういらないからね」と、母に言ったそうです。両親からの仕送りは最低限だったため、姉はアルバイトをして生活費を補っていました。今でも勉強との両立は大変なはずなのに、「アルバイトを増やしてお金を貯めるから大丈夫、それよりも、妹に十分なことをしてあげてほしい」と、母にお願いしたそうです。その電話のときに私は側にいたのですが、母は大粒の涙を流していました。

そんな時でした。病院で検査を受けた後、事務の方からお話がありました。育成医療についてでした。十八歳未満の身体に障害がある児童が、指定機関で入院・手術・通院した時の自己負担分を、公費で負担してくれるというのです。母はすぐ姉に連絡し、これまで通りの生活で大丈夫なことを伝えました。

あれから二年が経ちました。姉はこの春、晴れて看護師となり、一生懸命働いています。そして私は、手術のおかげで自分でできることがどんどん増えて、将来の夢も持ちました。もしも、あの制度がなかったら、姉は大学で勉強を続けることが困難になっていたかもしれません。私も、家族に負担がかかると知れば、素直に手術を受け入れることができなかつたでしょう。税金が、国民の生活を維持するために、さまざまな所で使われていることは知っていました。しかし、ほんの一部の困っている人のためにも、救いとなる制度が整っていることに、感動と感謝の気持ちでいっぱいです。予期せぬ突然の困難に見舞われたすべての人に柔軟に対応するために、税金は使われているのです。多くの人の目には触れていないところでも、税金は確実に一人一人の夢や希望をつなげる役割を果たしています。つなげた夢や希望は、人をさらに育て、社会をさらに豊かにします。希望をつないでもらった私も、一生懸命に勉強して、社会の一員としてしっかり生きていきたいです。